

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

<p>【5.0.1 入学者受け入れ方針】 本学部の入試形態は、大きく一般入試と各種入試に分けられる。一般入試においては、本学部にふさわしい優れた学力や潜在能力をもった出願者を、主として筆記試験によって選抜する。他方、各種入試においては、AO入試・スポーツ推薦入試・指定校推薦入試・関西学院高等部及びその他の協定校よりの推薦入試・帰国生徒入試・外国人留学生入試などの方法により、一芸に秀でた個性溢れる生徒や、高校生活においてリーダーシップを発揮した経験、ボランティア活動に従事した経験、海外生活を送った経験などの貴重な経験を有する生徒、また恵まれた教育環境の下で一定水準以上の学業成績を着実に挙げてきた生徒などを入学させることを目指している。</p> <p>そして、このようにして入学した学生たちが、在学中にそれぞれの個性・素質・能力を学業及び課外活動の両面において十分に発揮し、更に研ぎをかける事によって、キャンパスの中で学生たちが相互に刺激し合い、目標と向上心をもった学生生活を送れるようになることを期待するものである。</p>
<p>【5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法】 これまでの取り組みと同様に、優秀な学生、優れた能力・素質を持った学生、本学にふさわしい資質の学生など、数多くの受験生を集めることをめざしている。</p> <p>受験生の最近の出願動向の変化に対応するため、2006年度入試より、一般入試・大学入試センター試験利用入試・指定校推薦入試に関して次のような入試改革を行った。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 一般入試<ul style="list-style-type: none">・指定校推薦枠の拡大に伴い、募集定員を前年度の460名より400名に減員した。・F日程とA日程の募集人員を分割し、F日程140名、A日程260名として募集する。・F日程の配点は、英語200点、国語200点、選択科目150点、とする。・F日程の英語および国語の出題を全問マークシート方式とする。2. 大学入試センター試験を利用する入試 「大学入試センター試験を利用する入試」の募集定員は、2004年度までは学部全体で15名であったが、受験生の出願動向の変化に対応するため、2005年度より50名に拡大された。2006年度入試においては、志願者数のさらなる増加を図るために2月出願（3科目型）を中止し、新たに1月出願（3科目型）として募集することとなった。従って、2006年度より1月出願の6科目型が募集定員25名、同3科目型が募集定員25名、合計50名の募集枠となった。3. 指定校推薦入試 学力面・人物面で優れたより多くの学生を推薦入試によって求める事とし、募集定員を前年度の30名より90名に増員した。4. 追跡調査 推薦入試については、2005年度から毎年追跡調査を行っている。
<p>【5.0.3 入学者選抜の仕組み】 チェック体制を整え、入試におけるミスがなくす努力を行っている。入試問題についての学外有識者による問題確認を継続し、出題ミスの回避に努めている。</p> <p>また、今後とも受験生の出願動向の変化や社会経済情勢の推移に敏感に対応することを心がけ、できれば先取りした対応を行うように努めたい。</p>
<p>【5.0.5 アドミッションズ・オフィス入試】 「AO入試」においては、入学者の学力を担保するとともに、出願してくる受験生の個性的な素質や潜在能力を的確に把握する仕組みを工夫する必要がある。</p> <p>本学部においては、①高等学校における各種の課外活動実績の評価、②大学教育を受けるに足る基礎学力の検査、③将来社会人として指導的な役割を果たすために必要と思われる人間的な資質や魅力、の3つを評価の対象として、アドミッション・ポリシーの柱としている。</p> <p>上述したように基礎学力の検査を実施しているために受験生の飛躍的な増加は望めないが、2005年度・2006年度の入試を通じて、個性的な資質を備えた学生の確保という目的を概ね達成できている。</p>
<p>【5.0.9 科目等履修生、聴講生等】 本学部では、従来より主として社会人の生涯学習を念頭において、科目等履修生、聴講生、オープンカレッジ生などを積極的に受け入れてきた。全学でも最も早期に、「社会人のための課題研究コース」（通称「オープンカレッジ」）を設置し、現在では(1)現代社会研究コース、(2)社会福祉研究コース、(3)ヨーロッパの精神と文化研究コース、の3コースを各コース5名程度の募集枠で設置し、リカレントを望む社会人を積極的に受け入れようとしている。</p>

学内第三者評価

優秀な学生、優れた能力や素質を持った学生、本学にふさわしい資質の学生を求めること、多様性のある学生を求めること、数多くの受験生を求めること、に向けて継続的な努力がなされていることは評価できる。受け入れ方針（アドミッションポリシー）をより明確にするとともに、多様な選抜方法によってその受け入れ方針が実現されているかどうかの測定法の開発などが期待される。推薦入試については追跡調査を行っているが、それ以外の選抜方法での入学者について、学業その他の面での学生生活の充実度などについて多角的な追跡調査を行い、選抜方法の有効性について検証することが期待される。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・高大連携、社会人のための課題研究コースの導入など、先駆的な取り組みは評価できるが、その成果についての検証が期待される。